

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日: 2026年3月30日

事業所名: 児童発達支援 CYS school たまプラーザ教室

対象人数(保護者)27人 回答者数 20人 回収 74.1%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	5		
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	19			1
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	1		3
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	1		1
適切な支 援の提 供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20			
	⑥	事業所が公表している支援プログラム(※1)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20			
	⑦	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	20			
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	1		1
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20			
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20			
保護者へ の説明等	⑪	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	4	7	3
	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20			
	⑬	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20			
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	3	2	5
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	20			
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19	1		
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19	1		
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	6	4	4
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	1		1
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20			
非常時等 の対応	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17	1		2
	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19			1
	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	1		2
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	1		1
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20			
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1		2
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	20			
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	20			
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	19	1		

※1 : 支援プログラムはCYS school HPに公表されています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表			公表日 2026年3月30日	
事業所名		公表			公表日 2026年3月30日	
	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティションの使用、視覚カードの使用、個々に合わせた支度ボックスや調整した椅子の使用。 ・部屋が広くないので、食事と午睡の場所や自由遊びと個別をしている時のスペース、アフターのスペース、活動の場所など毎日ある環境の中で場所を譲り合いながら過ごしている。また、近隣に複数公園があるので、その日のメンバーや子どもの人数によって場所を決められるのは良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日によって午睡の場所が変わるので子どもたちが時々迷っている。寝る人数によってエリアの広さが変わるのには仕方がないが統一できた方がいいかもしれない。 ・玩具棚(天袋)側で寝ている時に、子ども達の上から玩具を取り出すのは落下の危険がある。また、寝る子が玩具を見て落ち着かなくなる時もある。 ・ロッカー、玩具棚など耐震対策はしているが、ずれていることがあるので、全てのスタッフでチェックが必要。 ・パーティションのゴムテープが劣化している部分を口にする子もいるので気づいたら補修をする。 ・子どもが使用するものは危険がないように常日頃からスタッフ全員が気を配るようにしたい。 ・子どもの行動を制止するのを最小限にするために、触って欲しくないものを手が届くところに置かない、見て欲しくないものを見えるところに貼らない、開けて欲しくないものは開けない、など刺激になるものは排除する。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8				
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		2		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		1	<ul style="list-style-type: none"> ・療育に関する研修が行われていない。スタッフ間の意識がある程度統一されてないとズレが生じてやりにくさを感じる。通常の保育よりも知識や技量が必要だと思われるため、外部講師を招いて療育について研修が必要だと思う。 ・その他の研修(心肺蘇生、嘔吐処理、アレルギー対応など)も、外部講師にしっかり指導していただいた方がいいと感じている。 ・研修は積極的に機会を設けて共通認識を深めたい。難しいケースや重大なヒヤリは事例検討を行って共有したい。 ・面談はあるが、何かあった場合、メールなどで周りを気にせず気軽にいつでも相談できる窓口があったらよい。 ・個人的に研修に行っているスタッフには補助ができるなどの制度があったらありがたい。 	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		2		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	1		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8			
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	2		
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		1	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の日報で情報共有、月の職員会議で日頃の子どもの情報共有をしている。 ・支援や食事、排泄などでどうやったらうまくいったか、どういう対応が苦手かなどの共有があれば関わるスタッフにヒントとなったりするので変化がなければ記載する必要はないが、何か特別に気づいたことがあれば記載があるといいと思う。 ・情報共有はしているが、子どもに全員同じ対応が出来ているかは少し疑問に思う時もある。(身体接触に対する捉え方、接し方など) ・外遊びに行くが、天候理由以外で室内で過ごしたり、歩き散歩に行かず園庭で過ごしたりすることが度々ある。メンバーによって難しい時ももちろんあると思うが、子どものためというよりは大人都合によるものが強い気がする。子どもを真ん中に考えて対応で 	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		1		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8				
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		3		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		1	きたらと思う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とは日頃から情報共有をしていると思う。子ども達が併用している幼稚園や保育園・就学先の学校との連携も必要に応じて対応していると思う。 ・たまプラーザ教室はというきっず保育園が併設しているので、同じ空間で過ごす時があったり、消防車が来た時に一緒に見学したりと必要に応じて関わっていると思う。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		2	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		3	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	1	5	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	1	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	3		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			<p>・日々の保護者対応で情報を共有していると思う。</p> <p>・都度保護者から要望があれば、できる所は受け、できない所は保護者に伝え、対応している。</p> <p>・行事があった際に地域の人は難しいが兄弟児と一緒に参加出来るように対応している。</p>	<p>・行事を通して保護者が接する機会を設けているが、情報交換のような場所にはなっていないので、今後工夫していきたい。</p>
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	1			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4	2		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		1		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		1		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			<p>・職員会議で非常時の対応の話は聞いている。また、必要に応じてロールプレイをして、具体的にどう動くか話している。実際になると足りない部分もあると思うが、話を聞けるだけでもイメージが意識出来るので良いと思う。</p>	<p>・実際非常事態があった時に動けるかは不安なため、定期的なロールプレイや対応の確認もしていきたい。</p>
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		3		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	CYS school たまプラーザ教室
-------	---------------------

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムの内容を子どもに合わせて工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で話し合って立案している。 毎回振り返りを行い、反省点を見つけ出している。 	<ul style="list-style-type: none"> 反省点を踏まえ、内容を検討し、再度実践してみる。 子どもの観察をし、職員での共通認識をもつ。 どういった声かけや支援が有効だったかを職員間の共有する。 療育に関する研修を行なっていく。
2	保護者との情報共有に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や降園時の対話など丁寧に対応している。 わかりやすく伝えるよう心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> どういった声かけや支援が有効だったかを保護者に共有する。 保護者のニーズを的確に捉える努力をする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域資源との交流	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ先の開拓が困難である。 子どもの状況や職員配置に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 同僚人内の保育園との交流を検討してみる 受け入れ先を検討する 調理の職員と触れ合うなど身近な資源を開拓し、慣れていく。
2	家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 職員配置に課題がある。 利用日、利用日数に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者間の交流も含めた療育参観の開催